

令和3年度 第7回 政策調整会議 会議録②

-
- ◆開催日時：令和3年11月10日（火） 10：40～11：30
 - ◆開催場所：第1委員会室
 - ◆出席委員：堤副市長、戎井副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長、松下まちづくり推進部長
-

◆審議事項

- ・岸和田市次期総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案について

・・・・・・・・企画課・都市計画課⇒承認

◆審議概要

『岸和田市次期総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案について』

〈説明者〉貝口企画課長、中井担当長、前田主任、上田担当員
山田都市計画課長、藤井参事

◎付議依頼書に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉わかりやすい資料にすることは非常に重要。一部見えづらい部分もあるので、修正すること。加えて、新たな展開を明確にしておくことも重要である。今回の新しい総合計画では、まちづくりの方向性として、新たに広域連携型の都市構造や都市間連携といった広域的な視点を取り入れている。本市のことだけ見るのではなく、広域的な視点を常に意識しておくこと。広域的な動きは速いので、岸和田市が後れを取らないよう、総合計画にも位置づけ、大阪府や周辺市町と連携を推進していくこと。

〈戎井副市長〉人口動向や社会状況の変化と個別目標やその方向性との関連性など、基本構想、基本計画の全体を通してつながりを持った構成とすること。また、表現が古い部分があるので、整合性がとれるようにし、例示するなど加えて具体的な方向性がわかるよう表現を工夫すること。人口動向で示されているように、20代、30代の転出が多く、子育て世帯に選んでもらえるまちづくりを行うことが課題となっている一方、転入理由としては住宅条件が良いことが挙げられている。戸建てを購入するような世代に選んでいただけるようなまちづくりに力を入れてはどうか。また、住民力が高まれば、住みたいまちとなり、資産価値も上がり、岸和田市全体の価値を高めることになるので、みんなでまちの価値を高めていくという観点を重要視し、思いやりやおもてなし、ホスピタリティが感じられる表現をされたい。

〈堤副市長〉社会状況の変化として挙げられている Society5.0 が具体的にどの目標と結びついていくかをわかりやすくしてもらいたい。

- 〈戎井副市長〉社会状況の変化として、カーボンニュートラルを取り上げているが、他方で、策定にあたっての4つの考え方では、「SDGsとの連動」という少し平板な記載になっている。世の中の流れとして地球環境問題やカーボンニュートラルがより一層大きくなっているの、ここでも項目出ししておくバランスが取れるのではないか。
- 〈教 育 長〉厳しい財政状況にあっても実現性が感じられるよう、施策の具体化を図るために優先的に投資していく、施策の実現のために必要な財源を確保する、といった前向きな表現を加えるなど、財務部とも調整されたい。
- 〈財 務 部 長〉「選択と集中」とSDGsは、一見すると矛盾と捉えられることもあるので、表現方法を検討されたい。現状の総合計画の終了後、総括的に見直す機会はあるのか。
- 〈中井担当長〉骨子案を作成する段階で、現在の進捗状況と第5次に向けて必要なことを各課に照会し、課題整理集としてまとめている。
- 〈財 務 部 長〉現時点で浮き上がっている課題もあれば、終わって初めて気づく課題もある。フィードバックも必要ではないか。多くの市民が総合計画を知らない。策定する過程において市民参加を促すことは重要だが、策定後いかに浸透させていくかも重要である。今後の周知方法について、計画内に謳える部分は謳ってもらいたい。
- 〈総合政策部長〉本案件について、原案一部修正のうえ、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、資料を一部修正のうえ、原案どおり承認し、政策決定会議に付議する。

付議会議	令和3年度 第7回会議
付議事項	岸和田市次期総合計画基本構想素案及び基本計画骨子案について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	総合計画は、自治基本条例の理念にある「市民自治都市の実現」に向けて、市政運営の方向性を明らかにする役割を担っており、行政のみならず、市民や議会とともに策定し、市民みんなのめざすまちの姿としての総合計画をめざす。なお、総合計画の策定と都市計画マスタープランの見直しを連携し進めることで、具体的な都市の将来像と都市計画の指針について一体的に進める。

★総合計画上の位置付け

202010201	基本目標	II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(1)行政の責務が果たされていることを市民が実感できている
	目指す成果	②明確な目標設定と評価により行政運営が行われている
	行政の役割	ア 目標の達成に向けて、計画的な施策の推進と適正な進行管理に努める

★現状と課題

<p>第4次総合計画では、21世紀型の新しい仕組みづくりとして、市民参加、地域経営の視点から、岸和田市自治基本条例の理念を具体化する役割を担う「市民みんなの総合計画」として位置付け、積極的な市民参加による総合計画の策定を実施してきたが、一方で市民による継続的な認知につなげていない。そこで、地域自治、公民協働のさらなる向上をめざし、市民参加による策定過程を重視した計画づくりとするとともに、まちづくり主体者の新たな連携の創出や多様な資源の活用など、少子、高齢社会における持続可能な地域づくりのための「みんなの総合計画」として策定していく必要がある。</p>
--

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R1年度	R2年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
とことん懇話会の開催、基礎調査、アンケート調査、団体ヒアリング等の運営補助委託費【～令和3年3月末】		12,815						
とことん懇話会の開催、庁内検討会議及び総合計画審議会運営、地区説明会の開催等運営補助及び計画書の作成委託費【令和3年4月～令和5年1月末】			10,538	9,999				
次期総合計画印刷、配布、広報【令和5年1月～令和5年3月末】				4,000				
総合計画の進行管理	16	16	16	16	16	16	16	16
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源	16	12,831	10,554	14,015	16	16	16
	その他							
事業費			計	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
			14,079	14,015	16	16	16	16

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
有					
	(無)				

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R1年度	R2年度	R3年度	目標値				
					R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
① 市民の声が市政に反映されていると感じている市民の割合	%	7.3	10	7.6	7.8				
② 市役所は目標の達成に向け、計画的に施策を推進していると感じている市民の割合	%	12.1	14.4	11.7	11.6				

※事業費及び人員を確約するものではない。